

平成24年度 第2回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

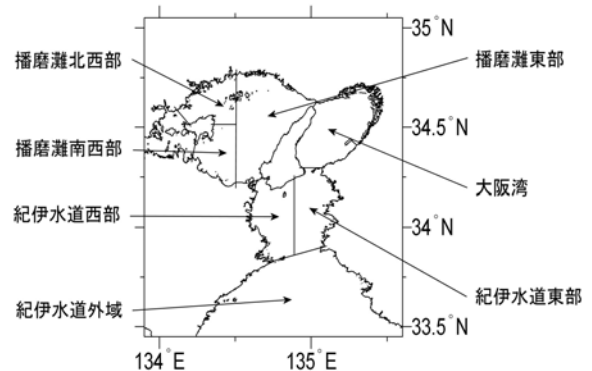
今後の見通し(平成24年7月～8月)のポイント

(1) 来遊量：

シラスは紀伊水道西部と播磨灘北西部で平年を下回り、その他の海域で平年並みか上回る。
カタクチイワシ(小羽から大羽)は大阪湾では好漁であった前年を下回る。

(2) 漁場：

紀伊水道東部のシラスは好漁であった前年を上回る。
紀伊水道西部のシラスは不漁であった前年を下回る。
大阪湾のシラスは好漁であった前年並みか上回る。
カタクチイワシは好漁であった前年を下回る。
播磨灘東部のシラスは好漁であった前年を下回りますが、
平年を上回る。
播磨灘南西部のシラスは不漁であった前年、平年を
上回る。
播磨灘北西部のシラスは不漁であった前年、平年を
下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、内海

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

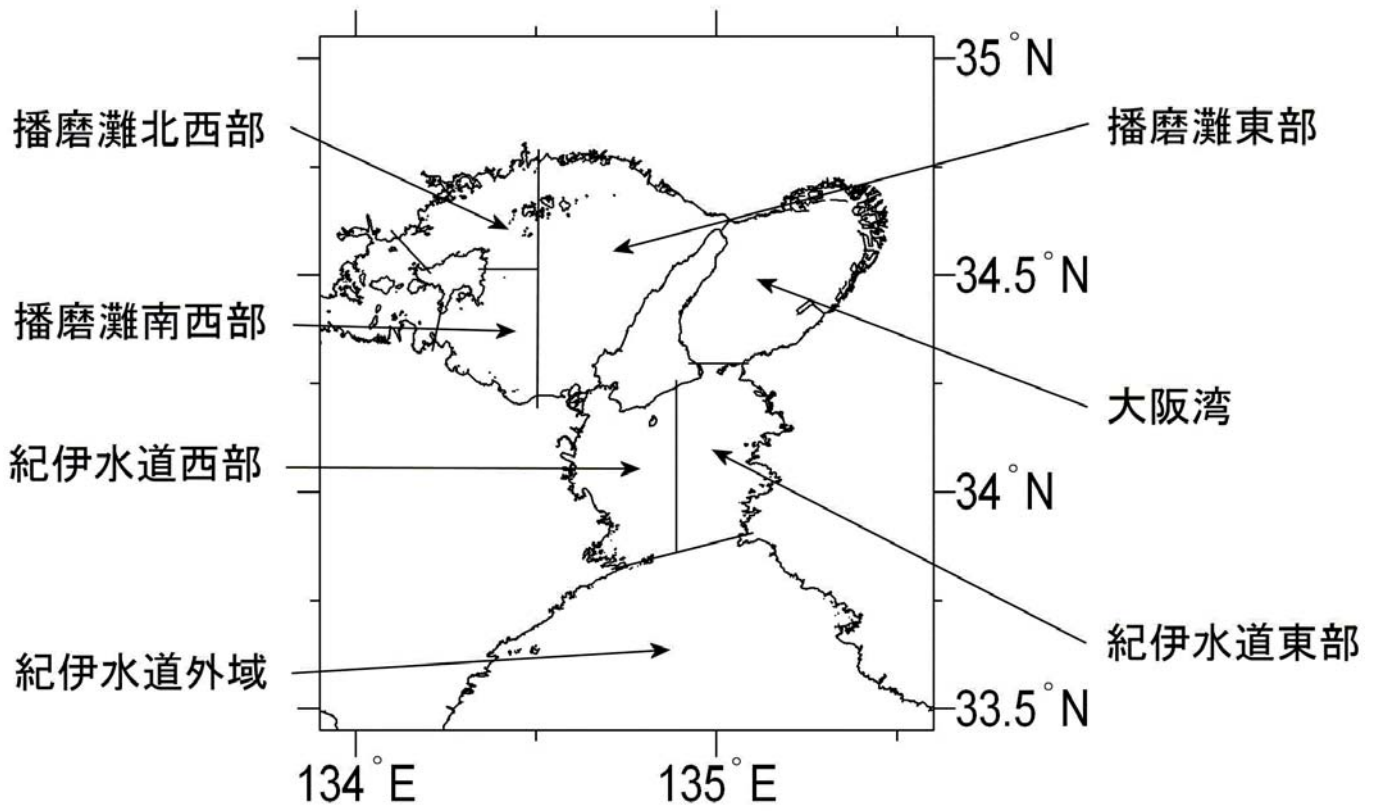
担当：吉田、川崎

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>



平成24年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2012年7月～8月）

シラス（本年夏季発生群）

紀伊水道東部では好漁であった前年を上回る。

紀伊水道西部では不漁であった前年を下回る。

大阪湾では好漁であった前年並みか上回る。

播磨灘東部では好漁であった前年を下回るが、平年を上回る。

播磨灘南西部では不漁であった前年、平年を上回る。

播磨灘北西部では不漁であった前年、平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2011年の平均値を平年値とした。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では好漁であった前年を下回る。

標本船の漁獲量を指標とし（図4）、1985～2011年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2012年4月～6月）及び今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では5月の漁獲量は前年の124%、平年の42%であった。6月も低調である。

紀伊水道西部（徳島県側）では5月の漁獲量は前年の111%、平年の7%であった。6月も低調である。

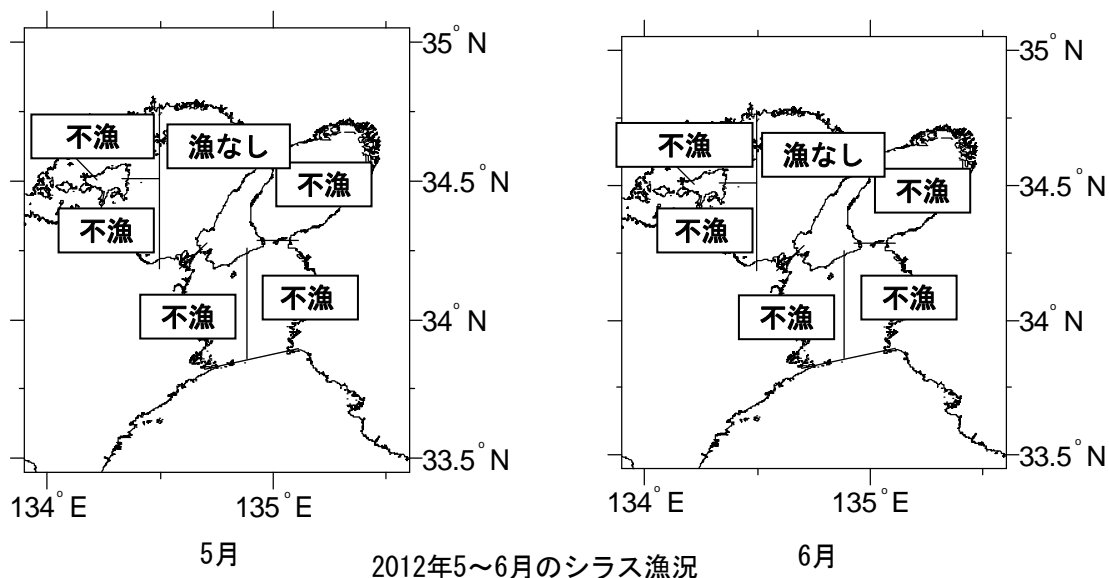
大阪湾（大阪府）では2012年の漁は前年より早い4月下旬から始まった。4月の漁獲量は平年の27%（前年は0t）、5月は平年の36%であり（前年は0t）、6月も低調である。

大阪湾（兵庫県）では2012年の漁は前年より26日早い5月7日から始まった。5月の漁獲量は平年の13%であり（前年は0t）、6月も低調である。

播磨灘東部（兵庫県側）では2012年の漁は6月18日現在、本格的に始まっていない。

播磨灘南西部（香川県側）では2012年の漁は前年と同じ5月20日から始まった。5月の漁獲量はわずかであり、6月も低調である。

播磨灘北西部（岡山県側）では2012年の漁は前年より9日早い5月30日から始まった。5月の漁獲量は平年（2000～2011年の平均値）の12%であり（前年は0t）、6月も低調である。



(2) 産卵量

紀伊水道外域東部では5月は前年の8267%、平年（2001～2011年の平均値）の27%であった。紀伊水道東部では5月は前年の237%、平年の227%であった。

大阪湾では5月は前年の826%、平年の188%、6月は前年の189%、平年の355%であった。

播磨灘では6月は前年の152%、平年の161%であった（図5）。播磨灘東部では6月は前年の416%、平年の79%、播磨灘南西部では前年の4495%、平年の457%、播磨灘北西部では前年の40%、平年の126%であった。

(3) 今後の見通しの説明

シラス（本年夏季発生群）

6月13日現在、黒潮は都井岬沖でやや離岸、足摺岬～潮岬沖で接岸している。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産総合研究センター海況予測モデル（FRA-ROMS）や気象庁運用予測モデル（MOVE/MRI.COM）の情報を併せて考慮すると、7月は期間を通じて黒潮流路は接岸して推移すると予測される。

紀伊水道東部では外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。紀伊水道東部の5月、大阪湾の5～6月及び播磨灘の6月の産卵量は前年、平年を上回った。7～8月は主にこれらに由来する内海発生群が漁獲の対象となることから、好漁であった前年を上回ると考えられる。

紀伊水道西部でも外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。7～8月の漁獲量は6月の紀伊水道西部と播磨灘（徳島県海域）の水温が低いほど多くなる傾向があり、播磨灘（徳島県海域）よりも紀伊水道西部の影響が大きい（図6）。播磨灘（徳島県海域）の水温は平年並み（平年値±0.5℃以内）であったが、紀伊水道西部では高め（平年値+1.0℃より高く、+1.5℃以下）であった。6月の産卵量は紀伊水道西部では不明であり、播磨灘（徳島県海域）では前年、平年を上回ったが、水温から判断すると不漁であった前年を下回ると予測される。

大阪湾では外海発生群が春から引き続き漁獲されるのに加え、内海発生群が6月以降にシラスとして漁獲されるようになる。黒潮は接岸傾向で推移し、大阪湾への来遊条件はよいが、紀伊水道での漁が低調であることから、7月以降の外海発生群の漁獲はあまり期待できない。また6月中旬現在、内海発生群の加入はほとんどみられていない。しかしながら、5～6月の産卵状況から判断すると、比較的順調に発生していると推測され、好漁であった前年並みか上回ると考えられる。

播磨灘東部では内海発生群が漁の主体であり、6月の水温が低いほど7～8月の漁獲量が多くなる傾向がある（図7）。また明瞭でないものの、播磨灘全体の6月の産卵量が多いほど7～8月の漁獲量が多くなる傾向がある（図7）。6月の水温は平年並みで、播磨灘全体の産卵量は前年、平年を上回ることから（図5）、好漁であった前年を下回るが、平年を上回ると予測される（図8）。

播磨灘南西部も内海発生群が漁の主体である。5～6月の漁は低調であるが、6月の卵稚仔密度が前年、平年を上回っていることから、不漁であった前年、平年を上回ると考えられる。

播磨灘北西部も内海発生群が漁の主体である。5～6月の漁は低調であり、他海域での漁も低調に推移している。6月の産卵量は平年を上回ったものの、前年を下回った。現在までの漁況と産卵状況から判断すると不漁であった前年、平年を下回ると考えられる。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では漁期当初に前年発生の子1歳魚、その後は2012年の春シラス漁で漁獲の対象となった0歳魚が小・中羽として漁獲される。前年のシラス漁は夏の一時期を除いて不漁で推移し、秋季のカタクチイワシ漁（カエリ、小羽）も低調であったことから、前年の発生量は少なかったと考えられる。しかし2012年の春季にはカタクチイワシ親魚の魚群が多くみられており、大阪湾に滞留している1歳魚は現在も多いと考えられる。一方、2012年の春シラスの漁況から夏季の小・中羽の漁獲はあまり期待できない。これらのことから判断すると好漁であった前年を下回ると考えられる。

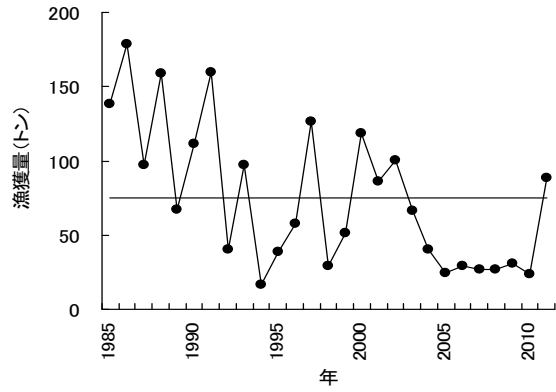
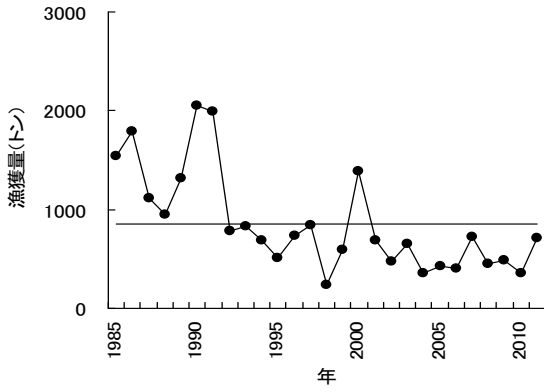


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

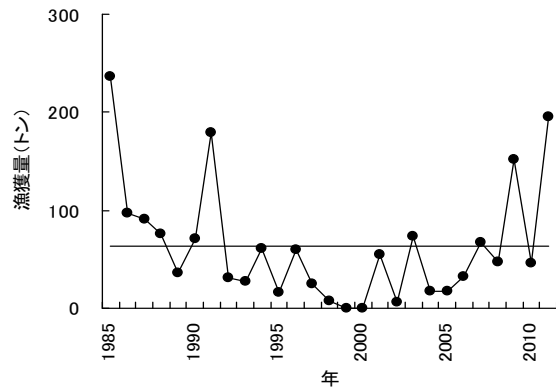
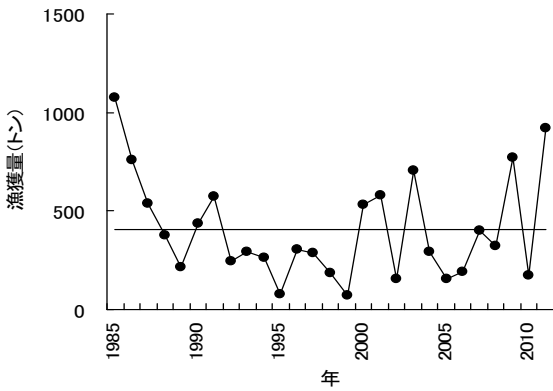


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

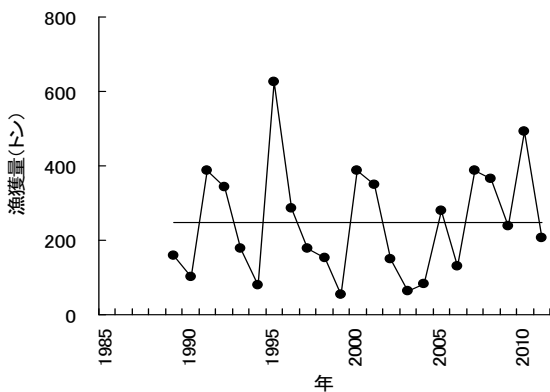
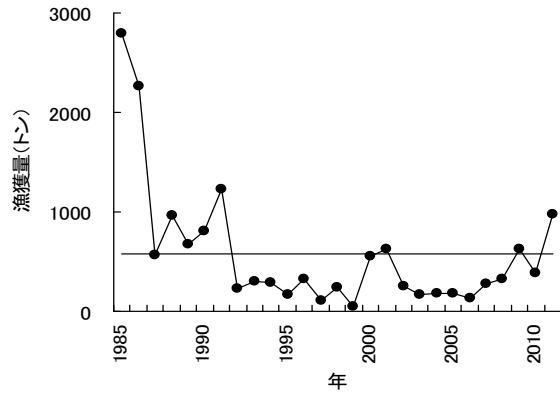
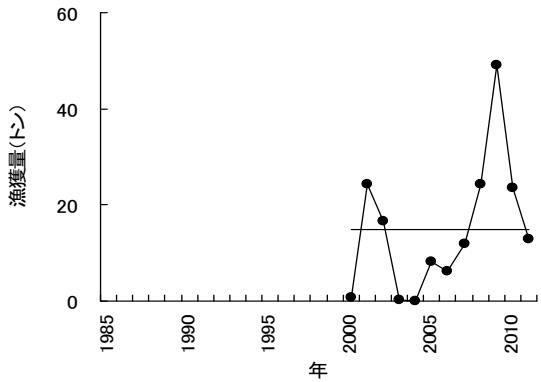


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における7～8月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における7～8月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

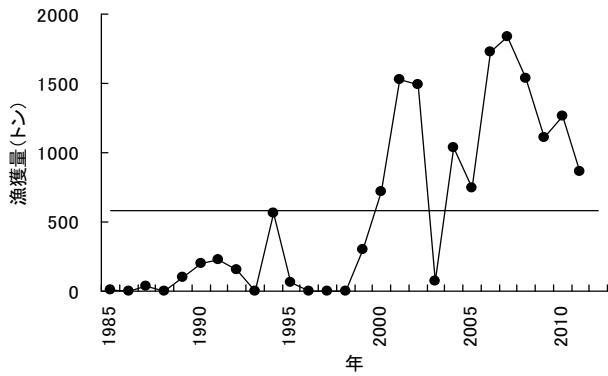


図4 大阪湾の標本船における7~8月のカタクチイワシ漁獲量（実線は平年値を示す）

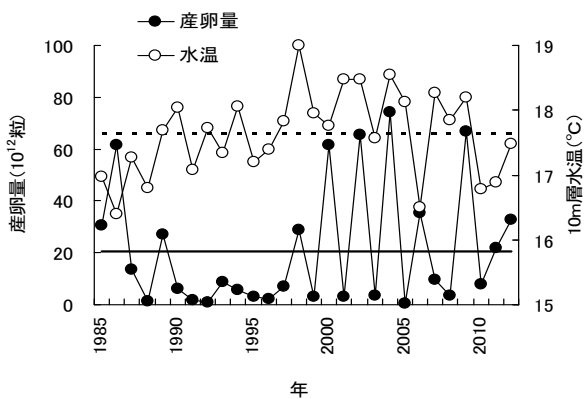


図5 播磨灘における6月の産卵量と10m層水温（実線は産卵量、点線は10m層水温の平年値を示す）

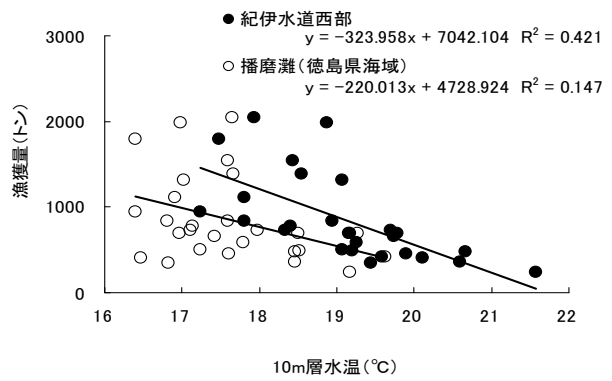


図6 紀伊水道西部・播磨灘（徳島県海域）における6月の10m層水温と紀伊水道西部の標本漁協におけるシラス漁獲量の関係

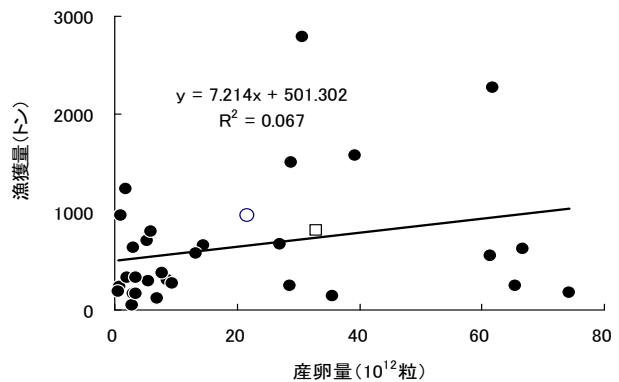
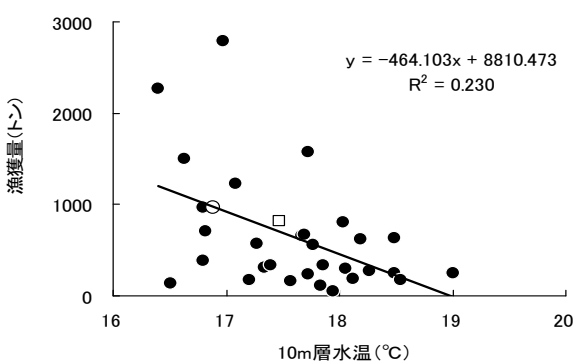


図7 播磨灘における6月の10m層水温と播磨灘東部における標本漁協のシラス漁獲量の関係（左図）及び6月の産卵量と標本漁協のシラス漁獲量の関係（右図）
 使用したデータは1981~2011年、○は2011年漁獲量、□は2012年予測値（2012年予測値は産卵量と水温をパラメータとした重回帰分析から求めているため、各図の回帰直線上にはない）

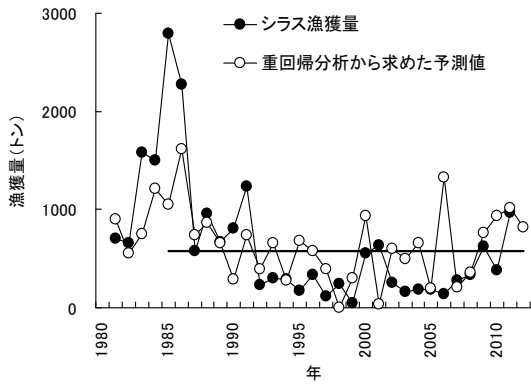


図8 播磨灘東部の標本漁協における7~8月のシラス漁獲量と重回帰分析から求めた漁獲量予測値（実線は平年値を示す）

参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所</p> <p>水産庁 増殖推進部 漁場資源課</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所</p>
--	--